

Seaweed Forest

渋谷駅周辺の再開発は進んでいる。古い建物は解体され、まったく新しい建物は建築され、人間の建築行為によって、100年後の渋谷のまちの景色は変わり、まったく新しいまちになる。しかし、建築の姿は変わり、古い資材は廃棄され、新しい資材は入れ替えられ、次々と建て替えた建築はこの土地に根付くものは何もなく、完全にまちの一部になることはない。単純に並ぶだけでなく、しっかりと土地に根付く、まちに「栄養素」を与える建築であれば、長年にわたってまちに残り、まちの重要な構成要素すなわちまちの遺伝子となる。海の底に海藻の群落、「海の森」ともよめる藻場、海の生き物に栄養と場所を与え、海の環境を浄化し、海の生態系では欠かせない構成要素すなわち海の遺伝子である。もし渋谷のまちにこの「海藻」のような建物が現れば、まちに「栄養素」を与え、まちでは欠かせない大切な支えとなり、渋谷のまちの土地に根付くまちの遺伝子になるだろう。

1. Seaweed Forest in the Sea

海の藻場



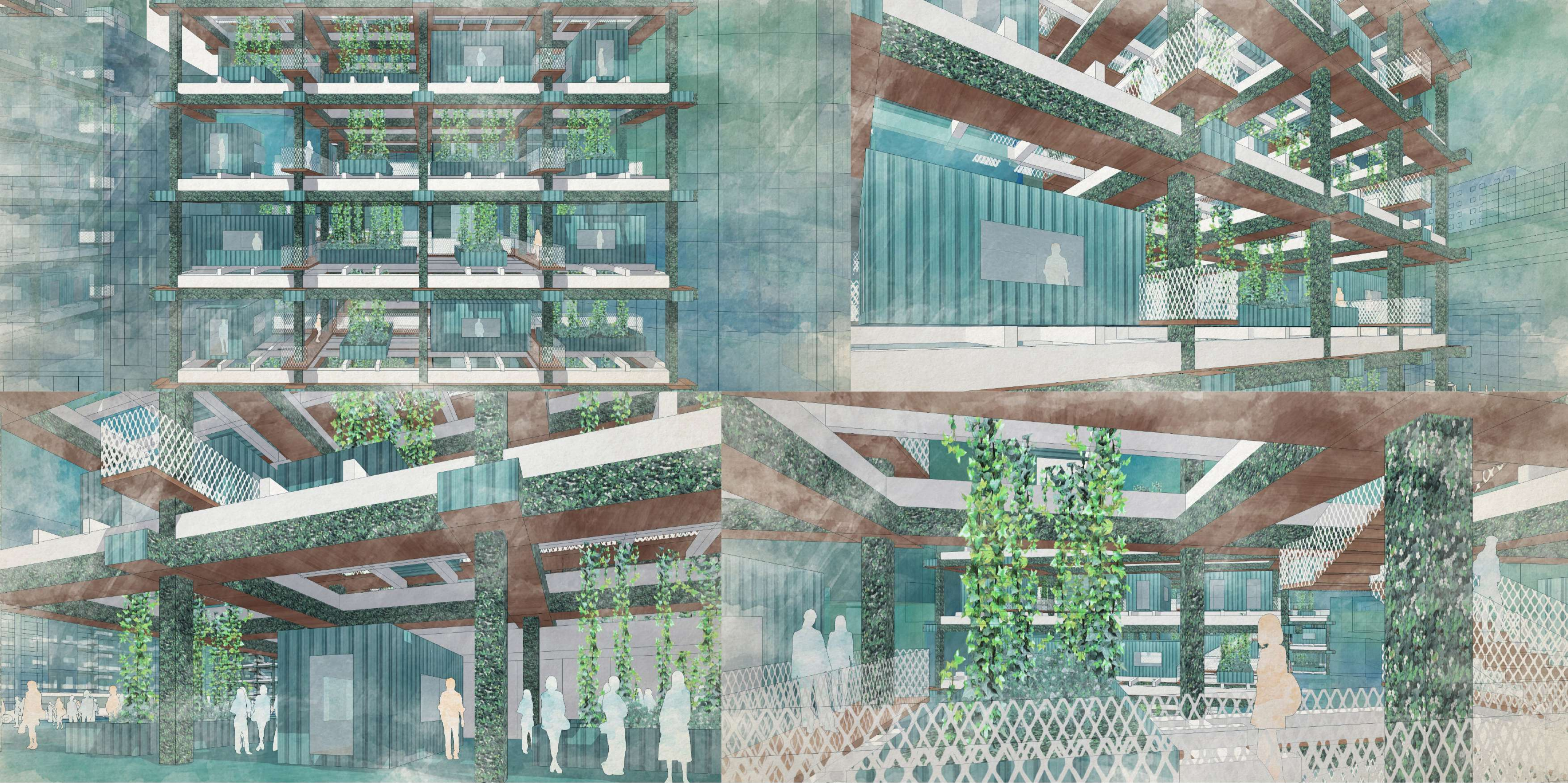
海の底にある海の生態系を支える海藻の群落に、水の浄化や海中酸素の供給に光合成が行われ、さまざまな生物が生息している。また、海藻は根で海底の土壌を安定させ、海の底に根付く欠かせないものである。海の環境が成り立つ極めて重要な要素で、海の環境がもつ遺伝子である。

2. Seaweed Forest in Shibuya

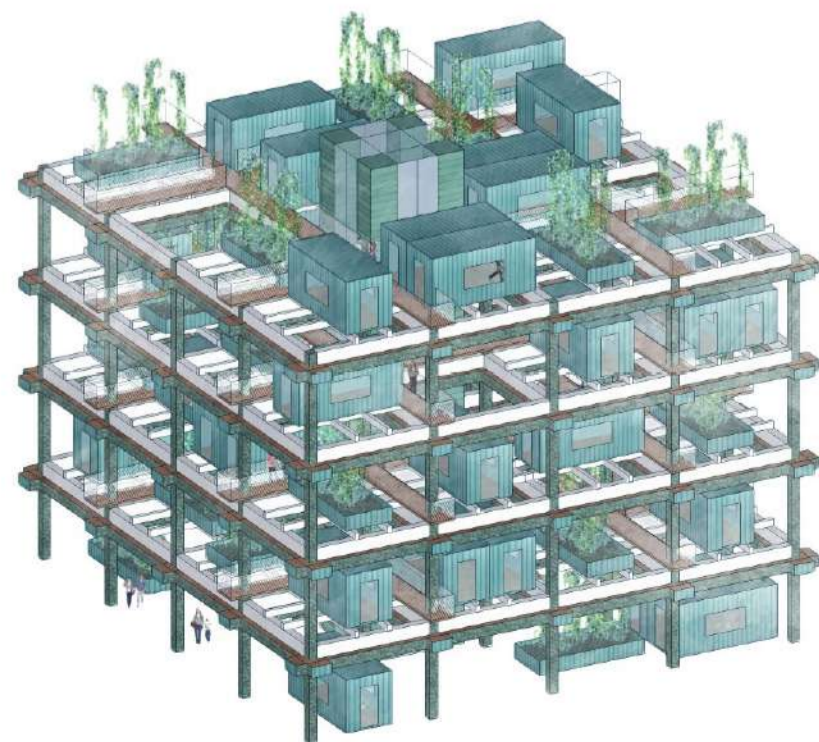
渋谷の藻場



渋谷のまちに「Seaweed」をたくさん植え付け、「Seaweed」は森となり、建物に絡み合い、まちに「栄養素」を与えるように働く。このまちに必要なとされる「栄養素」というのは、まちにある自由に入れ替える建築空間、環境に貢献する植栽空間である。この二つの「栄養素」をつくるために、「Seaweed」の森である「Seaweed Forest」の構成要素を提案する。この構成要素はやがて渋谷の土地に根付くまちの遺伝子となる。



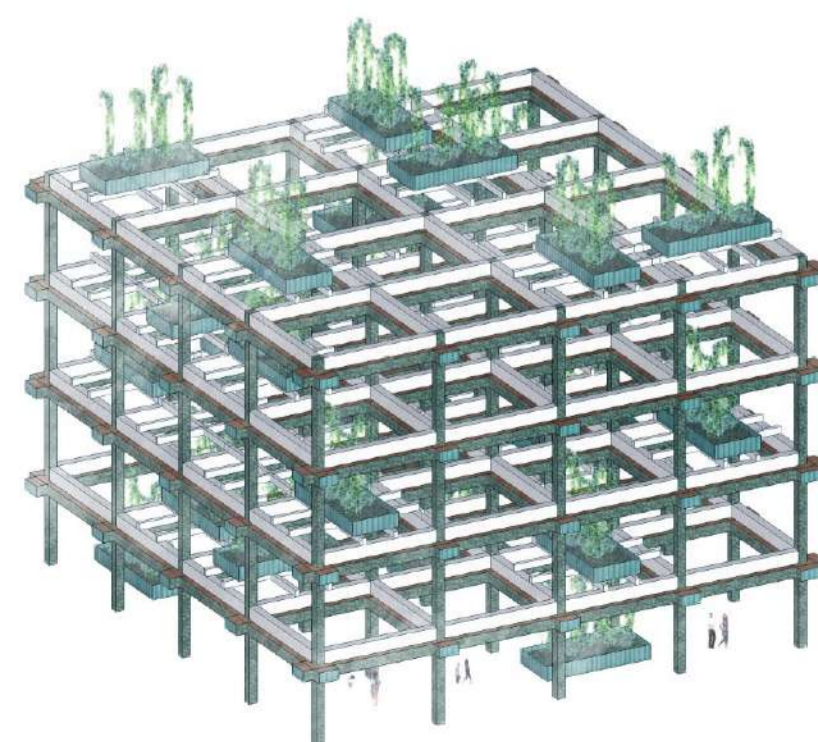
3. Diagram 「Seaweed Forest」の構成元素



新築時、構造設備スペースと直通階段や昇降路の確保のうえで、構造フレームの中にコンテナを入れる。コンテナには、居室タイプと植栽タイプ2種類はある。平面計画時、各階の居室配置に応じて、通路デッキを設ける。構造設備スペースフレームに壁面植栽を設ける。このとき、建物全体は住宅、オフィス、店舗などの用途に供する建築物の役割を働く。

⇔
入れ替わる

中間期、コンテナ-居室タイプの需要はなくなると、コンテナ-居室タイプや通路デッキなどを撤去し、コンテナ-植栽タイプを残す。このとき、コンテナ-植栽タイプと構造設備スペースフレームに設けた壁面植栽だけで構成される建築となる。このとき、建物全体はまちにある呼吸する立体的公園の役割を働く。



4.Flame

